

50代のハッピーライフプランニング Part 1 バラ色老後を送るために！老後にかかるお金はいくら？

ファイナンシャル・プランナー 有田 美津子

子供の教育費ピークと住宅ローンの返済、思わぬ親の介護に住宅のリフォーム・・・50代の家計負担は天井知らず！しかも、消費税の増税に、高齢世代を支えるための社会保障費の捻出・・・中間世代の辛さを身を持って体験中の方も多いのではないでしょうか？ととてもとても老後の資金まで考えが及ばない・・・という気持ちもよくわかります。でも、何も考えなくても、真面目に勤めあげれば、豊かな老後が待っていたのは、今、年金をもらっている世代まで！

来年60歳で定年を迎える男性には、1年間、老齢基礎年金（国民年金）も老齢厚生年金ももらえない年金の空白期間がやってくるのです。その後年々老齢厚生年金をもらえる年齢は遅くなり、昭和36年4月1日以降生まれの男性（女性は5年遅れ）は、65歳にならないと全く公的年金をもらえない世代になります。ということは、現在50歳の男性（昭和37年生まれ）は、定年の延長がない場合、60歳から65歳までの空白期間を埋める収入、または、貯蓄を準備する必要があります。

今回から、そんな不安を抱える50代が老後のスタートまでに、いったいいくらのお金を準備しておけばいいのか？ということを考えていきたいと思います。第一弾は老後にかかるお金についてです。

まずは、今50歳の人の平均余命と、老後にかかる生活費のデータから、ざっくりと老後資金を計算してみましよう。

データ1 現在50歳の男女の平均余命（厚生労働省 平成23年簡易生命表より）

男性：31.39年→82歳

女性：37.32年→88歳

データ2 夫婦二人の老後の生活費は？

（生命保険文化センター「平成22年度生活保障に関する調査」より）

最低日常生活費 約22.3万円/月

ゆとりある老後の生活費 約37万円/月

☆女性にとって必要な老後の生活費は？

*夫婦同じ年・60歳から老後・平均余命の差6年間は妻一人暮らし

*妻一人暮らし期間の生活費は夫婦二人の期間の70% として計算すると・・・

1.最低日常生活費は

$22.3 \text{万円/月} \times 12 \text{ヶ月} \times 22 \text{年間} = 5887 \text{万円} \dots\dots\dots \text{①}$

$22.3 \text{万円/月} \times 0.7 \times 12 \text{ヶ月} \times 6 \text{年間} = 1124 \text{万円} \dots\dots\dots \text{②}$

①（夫婦二人期間）+②（妻一人期間）= **7011万円**

2.ゆとりある老後の生活費は

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

36. 6万円/月×12ヶ月×22年間=9662万円・・・①

36. 6万円×0.7×12ヶ月×6年間=1845万円・・・②

①(夫婦二人期間)+②(妻一人期間)=1億1507万円

最低限の日常生活費だけで7000万円、バラ色老後のためには1億円以上！この数字を見ただけで頭がくらくらしてきますね。でも、誰もがこれだけの老後資金が必要になるのでしょうか？ここで出てきたデータ2の生活費は、全国の18歳から69歳の男女を対象とした意識調査で、実際の生活費ではなくこれくらいは必要だろう、と感じている金額です。あくまで、目安にしかありません。

では、あなた自身の老後には、いったいいくらのお金が必要なのでしょう？

50代になったら一度は自分の老後の生活を想像しながら、およその費用を計算しておきたいものです。

「あなた自身の」老後計算シートに、老後の生活を想像しながら、数字を入れてみてください。

次回からのコラムは、このシートを完成させるときに迷う、老後にかかる医療費や介護費について考えてみたいと思います。

バラ色の老後を送るために！
老後資金計算シート

私の老後のスタートは 歳 90歳まで生きたら??

老後にかかるお金は？

基本生活費	夫婦二人の期間 妻一人の期間	万円× 万円×0.7×	年 年	万円
・子どもの結婚・独立資金の援助 ・医療費・自分自身の介護費 ・住みかえ・リフォーム・老人ホームなどのお金 ・葬儀代・相続費用など				万円
・セカンドライフの夢・生きがいのための費用 旅行 趣味 地域の活動 資格取得 など				万円
・老後に残る住宅ローン・子どもの教育費 ・親への仕送り・介護費用など				万円
・予備費				万円
合計				万円

参考

- ・基本的な生活費：現在の家計から教育費や住宅ローンの金額を引き、4人家族から夫婦二人になる場合、現在の7割程度の支出を想定する。夫婦から単身になった場合も7割で計算。
- ・特別な出費：子供の独立援助や結婚資金の援助 車や家電、住宅設備などの出費
病気や介護に備えるお金 終の棲家にかかるお金 葬式代・相続費用など
- ・生きがい費用：老後にやりたいことを実現するための費用
- ・老後への持ち越し費用：住宅ローンや子供の教育費・親の介護費用など